

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・これまで法人の運営理念をもとにサービスを行っていたが、全職員で話し合い愛の里独自の理念を作り上げた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は目につく場所に貼付しており、職員一人ひとりが理念について理解し日々のケアに取り組んで居いる。 ・理念を念頭におきながらミーティングに取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・面会時愛の里の理念について説明を行い、今後この理念に基づきサービスを提供していく事を伝えている。 ・地域住民に対しては、施設について尋ねられた時に伝えている。	<input type="radio"/> ・地域の方々にも広報誌や、運営推進会議を通じて浸透が図れるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・立地条件上隣近所との交流は難しいが、隣接する特養の利用者との交流やデイサービスに来られた方が立ち寄りされたり、近くにある小学校・町内の行事へ参加している。 ・散歩や買い物に出掛けた際、知人の方と立ち話をされている。	<input type="radio"/> ・グループホーム独自の行事に参加して頂けるよう努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者の状態に応じて積極的に参加している。 ・地域が小学校を中心に活動していることも多く学校行事への参加も支援している。又、小・中学生がボランティアとして活動しに来られるなど地域との交流はある。	<input type="radio"/> ・地域の清掃活動などへの参加に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・グループホーム独自の貢献は行われていないが、在宅介護支援センターを中心に介護予防教室が行われている。	○	・グループホーム独自で地域に貢献出来る事がないか運営推進会議等で区長さんに話をし、積極的な参加やその取り組みについて検討して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価をする前に実施する意義・目的を全職員で理解して上で取り組んでいる。 ・外部評価後ミーティングで結果報告、改善点について話し合い少しでも改善できるように努めている。		・具体的な内容で、改善に取り組んで行きたい。 ・立地条件や、地域の環境、利用者の状態、状況に応じて改善に時間を要する事もあり、管理者を含め改善策を検討しながら取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議時外部評価の結果報告や改善点についての意見を頂いたりしている。又、地域との交流を深める為委員の方々へ地域の行事で参加出来るものについては声を掛けて頂くように話をしている。会議の内容については職員に議事録を見てもらっている。		・運営推進会議の内容、会議録を家族にも公表し、施設サービスの改善や、市町村担当者との連携が図れるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・電話や役場へ訪問し相談することはあるが、市町村関係者の施設への出入りは少ない。	○	・市町村関係者の立ち入り、指導監査以外にも市町村関係者に働きかけを行い、愛の里独自の活動に参加して頂き地域でのグループホームのあり方など、市町村担当者と連携を取りながらサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在では権利擁護、成年後見制度等への職員の理解や学習の機会が少なく、支援は行われていない。	○	・権利擁護、成年後見制度等について研修や勉強会に参加し学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修や施設内研修で学ぶ機会を持ち、職員一人ひとりが虐待は絶対にあってはならないのだと念頭におき、声を掛け合いながら仕事にあたっている。テレビや新聞に虐待のことが載っている場合は全員で目を通し、言葉使い等指導している。	○	・朝礼やミーティング時、常に言葉使いやケアの方法については話し合いをし、問題点がある場合は注意をしている。職員全員がその技術や知識を高められるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・新規契約をされる方や解約される方について契約書を細かく説明し理解を頂いている。又、契約時の説明だけでなく疑問に思った時はいつでも連絡して頂くように伝えている。解約後もいつでも相談対応が出来るようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者の日常での生活の様子を見守りながら、それぞれの意見や不満、苦情などについてその都度対応している。</p>	<p>○</p> <p>・利用者からの意見や相談についても記録に残したり、職員間でご家族や利用者の意見を聞き、吟味出来る機会を設けてサービスの向上を図っている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者の状態に応じてその都度ご家族に連絡を行い、ご家族の面会時は状態報告や生活の様子を報告している。又、毎月愛の里便りを発行し写真等で生活の様子を紹介している。</p>	<p>○</p> <p>・愛の里便りの発行を続けていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・契約時に苦情解決の流れの説明、意見箱の設置を行っている。又、ご家族へは面会時に職員の方から話しかけ相談しやすい環境や雰囲気作りをしている。</p>	<p>・ご家族からの意見、不満、苦情等があった場合は記録に記載し、職員ミーティング等でその事について話し合い運営に反映させている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は職員の話しに耳を傾け、利用者の状態についての報告やその処遇についての助言を頂いたり、運営に関しても職員の意見を聞いている。</p>	<p>○</p> <p>・職員ミーティングの開催を定期的に行い、毎回議事録担当を決めて記載を行うようにしている。会議の出欠に関わらず議事録に目を通してもらっている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・ご家族の面会に応じた勤務状態の変更や病院受診など、利用者へのサービスの提供が損なわれないように随時対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・ここ2年間は職員の異動もなく、馴染みの職員が対応出来ている。</p>	<p>・異動があった場合、利用者への紹介をきちんとし、利用者から学ぶ機会を設けている。異動後も遊びに来たりとこれまで築いてきた関係を大切にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・全職員が研修に参加出来るよう取り組んでいる。又、研修に参加した職員より研修報告会を開いたり施設内研修や関係機関の勉強会等に参加し知識や技術を深められるよう対応している。</p>	<p>○</p> <p>・今後は職員が学びたい事等、意見を聞き勉強会の開催を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・研修会を通じて交流を持ち、電話等での情報交換を行っている。又、毎月1回地域内の同業者で開催している勉強会に参加し困難事例等について意見交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>・施設の相互訪問の機会を作り更なる交流を図りたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員同士の食事会を開くなどしてストレスが発散出来る機会を設けている。又、職員一人ひとりの話を十分に聞く時間を設け対応している。</p>	<p>○</p> <p>・抱えている問題等はないか、早急に気付くことが出来るようにしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・業務の悩み等、聞く体制が出来ている。 ・資格取得に向けての励まし支援を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・事前に面談を行いご本人の不安な事や求めている事を理解出来るように工夫している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ご家族が求めている事や困っている事をよく聴き理解した上でどのような対応が出来るか話し合いをしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、本人やご家族の思いや状況等を確認した上で必要とするサービスへつなげられるように対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前は事前調査を行い本人がどのような生活を望まれているかを聴き取っている。又、入所後も定期的に今の生活について話を聴いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の得意な(野菜作り、漬物、裁縫)等教えて頂きながら、一緒に学んだり、昔の風習やならわしを取り入れ生活している。 ・共に生活者である意識を持ちながらサービスの提供に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者へのサービス提供での困難な状況や日常での生活の様子を伝える事でご家族に協力を求め、自宅での暮らしぶりを参考にしながら一緒に考え、解決できる関係作りに取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご家族の面会時に状態報告をこまめに行ったり、居室等でゆっくり話が出来るように環境を整えている。又、定期的にご家族へ電話を掛けられたり、取り次ぎなどを行いご家族と本人とがよりよい関係が築けるように支援している。	○	・行事等への声を掛け参加して頂いたり、よりよい関係が築けるように努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人の面会や贈り物のやり取り、隣接する特養に入所している知人を訪ねたり、自宅へ戻られた際に馴染みの方と会われている。 ・馴染みの理髪店や毎月行きたい場所を尋ねて、外出への支援を行っている。	○	・家族の協力を頂きながら連携を図り支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・気の合う方同士が居室で一緒に過ごせる環境作りをしている。 ・家事やレク活動時は、利用者同士が声を掛け合いながら円滑な関係を保てるように見守りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・他の事業所へ移られた場合、利用者と遊びに行ったり、こちらへも遊びに来て頂いている。		・退所後の様子をご家族に電話等で話を聞いたりして、今まで築いたご家族との関係を断ち切らないような対応を心がけていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の意向や困っている事など話を聞いて職員間で話し合いし対応している。 ・実現する事が難しいこともあり、職員対応出来ない事については利用者・ご家族と検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時バックグラウンドシート等をご家族に記載して頂いたり、本人からの聴き取りを記入している。 ・本人やご家族と話す事で情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの生活のリズムとパターンを把握している。 ・全職員が入所者の方々の出来る事への把握にズレが生じないように情報の共有を徹底する為、ミーティング等で話をし確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・アセスメント・カンファレンス等を開き、利用者の状態について職員で周知し、その上で介護計画の作成を行っている。また、状態に応じた介護計画の作成変更を行っている。	○	・家族の面会時に意見を求めているが、今後は、利用者・ご家族にも参加していただき、担当者会議が開催できるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・状態に変化が見られた時はご家族・本人から要望に応じてアセスメント・カンファレンスを開きプランの見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録を作成し記録している。 ・月末にはケアプランの評価を行いプランの見直し等に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の状況に応じて病院への通院や送迎等必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域運営推進会議を通じて、民生委員や地域の代表、行政担当者等と愛の里の現状などを話し合う機会を設けたり、防火訓練時消防の方に協力を頂いている。 ・学校行事への参加やボランティアの慰問、小・中学生の慰問等がある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・行政の開催している勉強会に参加し在宅介護支援センターや社会福祉協議会のケアマネージャー等との交流やサービスにあたっての助言等を頂いている。		空所になった場合在宅介護支援センターの利用者で入所が可能でないか等、入所に関する相談を行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・権利擁護は必要とされる方がおられない。今後必要に応じて情報交換は行っていきたい。	○	・介護予防認知症対応型共同生活介護のサービス提供も可能な為、今後利用者の予防給付対象の方が入所された場合、包括支援センターとの情報交換や支援を仰いでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の希望される主治医へ毎月1回受診の支援行っている。 ・ご家族の付き添いにて受診されている方については、受診後結果報告を詳細に聞いて記録に記載している。		・定期的な受診を支援しながら、医療機関との連携を深め、医師との情報交換を行い、利用者の状態に応じた支援が出来るよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>・家族の意向は記録に残し準備は行っています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>・本人・ご家族の意向については記録に記載しているが、意思確認書を作成していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシーを損ねることがないように言葉使いや声掛け、対応に配慮しお互いに注意するようにしている。職員会議等で職員の意識向上の為に常に話し合いをし徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者の意思確認を行い対応・支援を行っている。利用者の表情や行動、反応を職員が把握できるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりの生活パターンがあるので、職員はそれぞれの生活パターンに合わせた支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・御自分で準備出来ない方については準備し、意向を聞いています。化粧品や整髪クリームについては希望の品を準備している。理美容については本人の望む場所での支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・おにぎりやおはぎ等は出来る方には自分の分を作ってもらったり、片付けについても手伝って下さる方がいる為その日の状態を見ながら一緒に行っている。又、畑で取れた野菜を食事に出すことで話題作りも出来ている。	○ ・利用者が食事の準備に携わるのを好まれない方々については別な場所でのレク活動に参加して頂きながら、一緒に食事の準備が出来る環境を作りたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・日常的には該当する方がいないが、イベント時にお酒を出す程度である。おやつについては一緒に買い物に行き希望の物を購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・利用者の排泄パターンや失禁の状態に応じて対応を行っている。下剤服用時は時間を見ながらトイレ誘導を行っている。オムツ着用の方については本人の希望時トイレでの排泄介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日入浴が出来る体制ではあるが、体調を見ながら1日おきに入浴されている方もいる。入浴を拒まれる方に対しては職員が声の掛け方を工夫したりタイミングを見ながら納得した状態で入浴が出来るように配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・不眠を訴えられる方もなく、夜間については入眠されている。 ・日中は利用者同士一緒に昼寝されている方々もいらっしゃる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・野菜作りや梅干作り、裁縫、音楽を聞いたり、一人ひとりに合った楽しみ方をされている。 ・ドライブや買い物、地域行事への参加等を行い、楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理されている方は買い物等支払いをされている。管理の難しい方についてはご家族の希望により事務所に預かっている。 ・小額を手元に持っておられる方もおり、買い物を頼まれる際財布から出されている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・季節に合った行事計画を立て、出掛ける支援を行っている。 ・利用者の状態を見ながらドライブや散歩、買い物等に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・ご家族の方々の協力を頂き、帰宅や墓参り、外食などの支援が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者の要望時に電話を掛けて差し上げたり、ご家族からの電話の取り次ぎの支援を行っている。静かに話ができるように環境に配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族や親戚、友人、知人等が気軽に訪問出来るように雰囲気作りに努め、笑顔での対応やお茶の準備の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会への参加や身体拘束を行わないで済む処遇についての研修や勉強会に参加し日々のケアに取り組んでいる。	○	・日頃のケアの見直しを行いながら「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について勉強会の中に取り入れていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、玄関の鍵は掛けておらず、夜間については本人が就寝時に居室の鍵を掛けて休まれる方もいる為、施錠される方の把握と緊急時速やかに対応出来るよう取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は周りの状況に目を配りながら業務に携わっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険物(刃物類や火気類)については管理能力、利用者の状態に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・服薬については職員2名にて確認行っている。 ・離苑等のないよう所在確認の徹底、事故につながる危険性が考えられる場合は職員間で話し合い対応している。 ・事故が発生した場合は速やかにご家族へ連絡、説明(報告)し、事故報告書を作成、今後の対応策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・誤嚥時の対応やAEDの使用方法については学んでいるが、定期的な訓練等は行えていない。	○	・活用できる消防機関に講習の依頼や、事業所全体での緊急時の対応についての勉強会を開催して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防火訓練の実施は利用者の参加、職員の非難誘導、初期消火、通報訓練を年2回実施している。昨年スプリンクラーを設置し、その説明も受けている。 ・愛の里独自で速やかに非難誘導ができるように避難経路の確認や手順等について全職員で確認作業を行った。	○	・風水害についての避難訓練も今後実施して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・面会時に歩行の状態や車椅子の使用状況等を見て頂き、どのような時にどんな危険があるのか、現在の対応策等を説明し理解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・定時のバイタルチェックや日常での利用者の顔色・表情、状態の変化に職員が気付き、その都度対応ができるように記録や状態報告、申し送りで職員との情報共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬については薬事説明書に目を通し利用者が飲んでいる薬について把握するよう努めている。 ・薬の変更や状態に応じた短期間の薬の増減についてはその都度個人記録、申し送りノートに記載し口頭でも職員に伝えている。	○	・一人ひとりの既往歴や内服薬等について勉強会を開催して行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分摂取量のチェックや毎日の体操。苑外散歩など支援し、便秘について予防はしているが、それぞれ排便がない時は下剤を服用して頂くなどの支援をしている。	○	・水分摂取の重要性について再認識しながら飲水援助を行い病気の予防に努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・義歯を装着されている利用者が多く、毎食後の歯磨きへの声掛け、週に1回洗浄剤での義歯の消毒管理を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の摂取量は残食量から把握し嗜好についても把握している。献立やカロリーは併設する特養の管理栄養士の管理のもとで行われている。 ・あまり好んで摂られない方等については職員が把握しこまめに水分補給を勧めている。夏場については脱水の観点からも水分摂取量のチェックをしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に対するマニュアルを作成しその都度対応を行っている。 ・予防対策として、ペーパータオル使用、手指消毒、使い捨て手袋を使用している。	○	・感染症対策委員会などへの参加も行い、感染症に対する知識やその対策について職員が知識を深めるよう勉強していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器・調理器具は洗浄後食器乾燥機にて乾燥行い、まな板・包丁は使用前に消毒し状態を見ながら漂白行い天日乾燥行っている。 ・食材は必要な量のみ準備し冷蔵庫にて管理している。 ・冷蔵庫の掃除は、状態を見ながらその都度行っている。	○	・利用者が外出時にお菓子類を持ってこられたり、面会時に差し入れが有り、職員が把握できない事もある。外出後、帰苑された際の様子や面会後の差し入れなどの有無を把握するように努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前の花壇に季節の花を植えたり、周囲には家庭菜園があり季節感を支援している。 ・天気の良い日は玄関前に椅子等を準備し外を眺めたり日光浴ができる様にしている。		・観葉植物や装飾品での玄関、建物の家庭的な雰囲気作りに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、利用者それぞれに、個々人の持ち物や装飾品で部屋の雰囲気作りを行っている。 ・玄関ロビーにソファーとテーブルがあり気の合う人同士が集まって音楽を聴いたり歌を歌って過ごされる空間作りが出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共同生活の場所と居室で過ごす空間の中で利用者がそれぞれの思いで過している。又、廊下に2ヶ所ソファーを設置しいつでも過せるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者の居室には馴染みの家具や仏壇を持って来られている方やご家族の写真、植物を部屋に飾りその人なりの好みに合わせた居心地の良い環境の中で過ごして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温・湿度計を設置しその日の温度に合わせて入所者に尋ねながら冷房・暖房の温度を調整したり、衣類調節を行っている。 ・換気については定期的に行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ベットや家具の位置は、本人の要望を聞きながら安全に自立した生活が送れるよう工夫している。 ・浴室は安全に入浴が出来るように手摺を設置し、また廊下にも手摺を設置し環境整備に努めている。 ・物干し竿の高さについても干しやすい高さになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・一人ひとりの出来る事(洗濯・掃除・食器洗い・菜園作り等)への把握を行い一連の手順の声掛け、見守り行いその人の持っている能力を活かし自立して暮らせるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・建物の周りに一部の利用者が畑や花壇を作られ、他入居者も一緒に外に出て散歩をしたりテーブルを準備しお茶を飲んだり日光浴を楽しんでいる。		